

ローマ5章12-21節 「満ちあふれる恵み」

1A アダムとの違い 12-17

1B 入り込んだ罪と死 12-14

2B 恵みの賜物 15-17

2A アダムと似た点 18-21

1B 一人の行為 18-19

2B 支配において 20-21

本文

ローマ人への手紙5章 21 節から読んでいきます。私たちは前回、信仰によって義と認められた私たちが今、どうなっているのか、その結果について学びました。それは、神との平和を持っているということ。神が私たちの味方です。そして、恵みによって神の栄光を望むことができるようになっていることです。神が栄光の輝きをもって、この世に臨まれます。人々は滅んでいくような時に、私たちはキリストの流された血によって救われるのです。そして今の苦しみがあります。これは神の怒りではなく、むしろこの世から来るものですが、しかしその患難でさえ私たちに練り清め、失望に終わることのない希望で私たちに満たしてくださいます。

そして、五章後半に入ります。ここは次の章 6 章に入る時にとっても大切な教えになります。6 章からは、聖化、つまり聖めに入ります。私たちがキリストの似姿に御霊によって変えられることです。その教えに入る前に、今、私たちが知らなければいけないのは恵みの性質です。

1A アダムとの違い 12-17

1B 入り込んだ罪と死 12-14

5:12 そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界にはいり、罪によって死がはいり、こうして死が全人類に広がったのと同様に、..それというのも全人類が罪を犯したからです。

パウロは、「そういうわけで」と言っていますが、ずっとさかのぼって、3章 23 節にまで行くのです。パウロは、あらゆる種類の人々を取り扱って、「すべての人は罪を犯した」と論証しました。どんなに道徳的な人もいかに罪深いのか、聖書を教える教師でさえ罪から免れることはできないことを話しました。ですから、全ての人が罪を犯したのですが、それは飽くまでも結果にしか過ぎません。罪を犯したという行為以前に、私たちが罪をもって生まれてきたという性質の問題があるからです。

「ひとりの人によって」と言っていますが、これはアダムのことです。初めに造られた人が、エデンの園で罪を犯したために、その全人類が罪人とされました。人類の頭が罪を犯したので、頭の下にいる人々もみな、罪を犯したことにされたのです。一つの国の指導者が政策において誤った決

断をして、その国が戦争をして市民に多くの犠牲者が出たとします。その指導者の過失によってその下にいる人々はその結果を被るように、アダムが罪人のかしらとなり、私たちが罪を犯した者となったということです。

そして、その罪はちょうど遺伝のように受け継がれます。母の胎から生まれる時にはすでに罪の性質を持っています。ダビデは、主の前で自分が罪を犯した者であると告白した時に、その悔恨がとても深かったため、彼は御霊によって、このことの啓示を受けたのです。「詩篇 51:5 ああ、私は咎ある者として生まれ、罪ある者として母は私をみごもりました。」彼はバテ・シェバと姦淫の罪を犯した、そして彼女の夫ウリヤを殺したということを、その罪はすでに母の胎の中にいる時から宿していたということを言っているのです。

そして「6:23 罪から来る報酬は死です。」とあるように、アダムが罪を犯して、霊的に死に、それから肉体にも死が入ってきたように、全ての人に死が入りました。多くの人が、こんな正しい人がどうして罪人とされるのですかと疑問を持つことがあります。けれども、その正しいとされる人が死ぬことを見てください。その死は、彼が受け継いだ罪から来ているのです。その人が死ぬということは、その人は罪人であったことを証明しているのです。ただ一人、罪と死の原理を打ち破られた方がいます、私たちの主イエス・キリストです。この方の甦りは、この方が確かに罪なき方、正しい方であることを証明しました。

5:13 というのは、律法が与えられるまでの時期にも罪は世にあったからです。しかし罪は、何かの律法がなければ、認められないものです。5:14 ところが死は、アダムからモーセまでの間も、アダムの違反と同じようには罪を犯さなかった人々をさえ支配しました。アダムはきたるべき方のひな型です。

アダムが罪を犯して、モーセによって律法が与えられるまでの間、もちろん死んでいった人々がありました。アダム自身が千年も満たないで死にました。律法が与えられたのは紀元前 1446 年辺りですから、それまでの人々ももちろん死にました。ということは、律法の違反によって罪に定められなくても、罪が存在していたことを示しています。生まれながらの罪の性質を持っているので、罪を犯すのです。ですから罪を犯したから、罪人なのではなく、罪人だから罪を犯すのです。ちょうどこれは、「馬だからひひ〜んと鳴くのか、それともひひ〜んと鳴いたから馬になるのか。」という質問と同じです。もちろん前者が正しいです。

そして、この理解は次の恵みの教えを知るためには、不可欠です。「アダムはきたるべき方のひな型です。」とあります。つまり、アダムが罪を犯して、全世界に罪が入り、死が入ったということが、キリストによる神の恵みの働きを指し示している、ということです。つまり、キリストが義の行ないをして、それによって信じる者すべてに義の賜物が与えられ、それで命が支配したということです。

2B 恵みの賜物 15-17

けれども、もちろんアダムとキリストは正反対の働きをしています。まずは、その違い、対比を行ないます。

5:15 ただし、恵みには違反のばあいとは違う点があります。もしひとりの違反によって多くの人が死んだとすれば、それにもまして、神の恵みとひとりの人イエス・キリストの恵みによる賜物とは、多くの人々に満ちあふれるのです。

初めに、アダムは違反を行なったけれども、キリストにおいては恵みの賜物が満ちあふれる、ということです。一人の人が行なったことが、一気に広がりました。原発で働いている人の、たった一つの操作ミスによって、大ぜいの人が放射能をあびて死んでしまう可能性があるように、アダムの違反によって多くの人が死んだのです。けれども、神においては、キリストが行なわれたことによって、私たちがまったく何も行っていないので、そのキリストが行なわれたことにとまなう祝福が、怒涛のごとく私たちに押し寄せる、というものなのです。例えば、ある小国において原油が発見されて、その国の住民全体がまったく働かなくても裕福に暮らせるほど潤いがもたらされるように、キリストが行なわれたことによって、私たちに祝福が満ちあふれます。

しかも、パウロは、「それにもまして」と言っています。たった一人の人間が多くの人を死にいたらしめるほど影響力を持っているのなら、神とキリストが行なわれたことは、どれほど私たちに影響を与えて、恵みに満たしてくださるだろう、とパウロは言っているのです。恵みは、罪と死に対して勝ち誇っているのです。

5:16 また、賜物には、罪を犯したひとりによるばあいと違った点があります。さばきのばあいは、一つの違反のために罪に定められたのですが、恵みのばあいは、多くの違反が義と認められるからです。

パウロは再び、アダムとキリストとの間にある相違点をあげています。アダムによって私たちにもたらされたのは、罪に定められることです。人は死ぬことと、死後に神にさばかれることが定まっています。アダムによって、みな在地獄に行くことが定められてしまったのです。

けれども、キリストによっては、義と認められることがもたらされました。罪とは大きな力を持っており、二つ、三つと言わず、たった一つの違反で死罪にあたります。他にどんなに良い行ないをしていたとしても、たった一つの罪で十分なのです。しかし、キリストにおいては、たった一つの罪どころか、私たちが犯した罪のすべてを、あの十字架の上で背負ってくださいました。イエス様は、あなたのこの罪のために死んでくださったけれども、あの罪を犯したから駄目だ、地獄行きだ、とはならないのです！ 私たちは、すべての罪において、個々人の全ての罪について、そして全ての人の罪について、はっきりと、神の前では無罪判決が出ていると言うことができます。

5:17 もしひとりの人の違反により、ひとりによって死が支配するようになったとすれば、なおさらのこと、恵みと義の賜物とを豊かに受けている人々は、ひとりの人イエス・キリストにより、いのちにあって支配するのです。

アダムが行なったことによって死がもたらされたけれども、イエス・キリストの場合は、いのちがもたらされました。アダムの違反がもたらした影響力は、とてつもなく大きいものでした。全人類が死に至るといふ影響力と確かさを持っていました。人間なら、人は必ず死ぬというほどはっきりしていることはありません。

けれども、パウロはここでも、「なおさらのこと」と言っています。アダムという人間でさえ、これだけのことをすることができたのだから、神であられる方は、なおさらのこと影響力を与え、より確実なことを行なわれるのだ、とパウロは言っているのです。人が死ぬよりも、私たちが義と認められます。恵みによって、義が賜物として与えられました。先に説明したように、キリストが罪を犯されなかった、その義によってこの方を神は甦らせました。その義が、私たちに賜物として与えられるのです。永遠の命が与えられ、神の国を相続することのほうが確実だ、と言うのです。すばらしいですね。

「恵みと義の賜物とを豊かに受けている」からこそ、キリストによる命の支配が可能だということです。これが6章の内容につながります。恵みと義の賜物の豊かさにしたがって、私たちは罪の支配から解放されています。

2A アダムと似た点 18-21

こうしてアダムとキリストとの相違点を話したうえで、なぜアダムがキリストのひな型であるか、その類似点を次から話します。

1B 一人の行為 18-19

5:18 こういうわけで、ちょうど一つの違反によってすべての人が罪に定められたのと同様に、一つの義の行為によってすべての人が義と認められて、いのちを与えられるのです。

アダムとキリストが似ていたのは、一つの行為を行なったことです。アダムは、善悪の知識の木から、実を食べるといふ行為を行ないました。それによって、すべての人が罪に定められました。キリストの場合は、十字架の上で、血を流されて、死なれました。この一つの義の行為によって、キリストを信じるすべての人にいのちを与えることがおできになります。

5:19 すなわち、ちょうどひとりの人の不従順によって多くの人が罪人とされたのと同様に、ひとりの従順によって多くの人が義人とされるのです。

もう一つの類似点は、影響を受けた人についてです。「多くの人」とあります。イエスさまは、ただ一度、死なれたわけですが、それは、ご自分を信じるすべての人に及びます。アダムの不従順によって、見事にすべての人が罪人とされました。

同じように、キリストの父なる神への従順によって、キリストを信じる者は、だれひとりとして罪人のままでいることはありません。ここで、「義人とされる」とあります。未来形になっています。義と認められる、あるいは、正しいと宣言されることは、もうすでに起こりましたが、実際に義人になるのは、主が再び来られるときを待たなければなりません。そのときに、私たちのからだが変わられて、キリストに似た者とされるのです。

2B 支配において 20-21

そこでパウロは、結論を出します。

5:20 律法がはいつて来たのは、違反が増し加わるためです。しかし、罪の増し加わるころには、恵みも満ちあふれました。

これまで罪と恵みの対比を行なっていました。律法というのは、アダムが罪を犯したずっと後で与えられました。律法は、確かに罪を犯したということ、違反を示すということです。罪が増し加わるころに、恵みが満ちあふれました。満ちあふれたのであり、罪は恵みの中で飲みこまれてしまったのです。私たちがどんなに罪を犯したとしても、私たちが自分で赦すことのできない、ひどい罪を犯したとしても、そこには、その罪の力を完全に打ち消し、さらに義といのちで満ちあふれさせる恵みがあるのです。

5:21 それは、罪が死によって支配したように、恵みが、私たちの主イエス・キリストにより、義の賜物によって支配し、永遠のいのちを得させるためなのです。

アダムとキリストにある最後の類似点は、支配する力です。アダムの罪がもたらした死は、だれがどうもがいても免れることのできない支配力を持っています。同じように、信仰によって義と認められた者たちが、永遠のいのちを得るといふ支配があります。

ですから、私たちが義と認められることは、このあふれるばかりの恵みの中に入ることであります。罪を犯したから罪人になったのではなく、元々罪の性質を持っているから罪を犯しているのだ、ということを知ることによって、初めて、同じようにキリストにある神の恵みが自分の内に働いて、それで神の義が賜物として与えられて、それで自分が永遠のいのちを持つことができるのだ、とすることができるのです。6章では、聖潔、つまり聖めへの道を学びます。それは永遠のいのちにいたる過程、プロセスなのですが、それは恵みと義の賜物による支配の中で行われます。つまり、聖めも神の恵みなのです。